

2020年度 全日本学生ヨット個人選手権大会  
2020年 全日本学生シングルハンドレガッタ

大会レース委員会からの事前展開事項

このドキュメントは、新型コロナウイルス感染防止、三密防止対策として、大会ブリーフィングを短時間とするために事前展開するものです。同じ理由で、レース公示、帆走指示書、大会を管理する文書への質問は、大会webサイトで入手することが出来る書式を用いた事前送付を推奨します。事前送付された質問に対する回答は、大会webサイトに掲示されます。

■ 帆走指示書の補足説明 (以下の文章の番号は、帆走指示書の項です)

以下はいかなる規則も変更していません。またこのとおりとならなくても、艇からのプロテストの根拠とはなりません。

9. マーク

1. M1、M2、3P、3S、4P、4Sは、オレンジ色の円錐形ブイである。
  - 全高2.0mのエアースタイルブイです。
2. フィニッシュ・アウトターは、オレンジ色の円筒形ブイである。
  - 全高1.5mのブイです。
3. 指示11に規定される新しいマークは、緑色の円錐形ブイである。
  - 指示9.1のマークに緑色のカバーで覆った、全高2.0mのエアースタイルブイです。

22. 支援艇

8. レース委員会艇に『緑色旗』が掲揚された場合、『支援艇は、レースをしているエリアを含む全てのエリアにおいて、危険な状態にある艇を可能な限り速やかに救助しなければならない。』ことを意味する。この場合、指示22.7は適用されない。
9. 支援艇は、出艇前に大会本部にて、レース委員会より無線機を受け取り、海上では常時無線を傍受していなければならない。貸与する無線機は傍受専用で、レース委員会からの救助要請を除き、発信してはならない。
  - 無線機の取り扱い、救助の協力については、別途展開の『支援艇ガイド』を参照下さい。

27. 運営艇

- 本大会は、以下の運営艇を運用します。

所属	役割	艇名	艇仕様
レース委員会	信号艇	浦風	Hard Boat
	スタート・ピン/4マーク艇	NORO	Hard Boat
	1マーク艇	日進	Hard Boat
	2マーク艇	ピアンカ	Hard Boat
	3マーク艇	ばあご	Hard Boat
	フィニッシュ艇	サムライ	Hard Boat
プロテスト委員会	ジュリー1	SWC	Rib
	ジュリー2	モリゾー	Rib
セーフティー /テクニカル委員会	レスキュー1	クリスティーナ	Rib
	レスキュー2	恵風	Rib
	レスキュー3/テクニカル	グランパス	Rib
	レスキュー4	エイボン	Rib
	トーイング1	みなはや	Hard Boat
	トーイング2	高師	Hard Boat
大会委員会	メディア	AUT	Rib
	VIP	Ocean	Sailing Cruiser

■ SP：レース委員会が審問無しに課す標準ペナルティー

以下は公式掲示板に掲示されています。

4. 陸上で発する信号

2. D旗が音響信号1声と共に掲揚された場合、「出艇を許可する」ことを意味する。艇はこの信号が発せられるまで離岸してはならない。(以下、略)
  - 指示4.2 違反に対して、その違反の直後のレースの得点に+5点を加点する。  
艇のレース得点は失格(DSQ)より悪くなることはない。

18. 安全規定

1. 全ての競技者、支援者は、帆走指示書のリンク先より健康チェックシートのフォームを入力し、毎朝ブリーフィングまでに送信しなければならない。
  - 指示18.1 の1回目の違反に対して、警告を与える。  
警告は大会ホームページにある公式掲示に掲示される。  
2回目の違反に対して、その違反が競技者の場合、その日の最初のレースの得点に+5点を加点する。  
2回目の違反に対して、その違反が支援者の場合、関連する全ての艇の直後のレースの得点に+5点を加点する。  
いずれの場合も、艇のレース得点は失格(DSQ)より悪くなることはない。
2. 出艇しようとする競技者は、その日の08:00からその日のD旗掲揚予定時刻までの間に、帆走指示書のリンク先より「出艇申告書」のフォームを入力し、送信しなければならない。
  - 指示18.2 の1回目の違反に対して、警告を与える。  
警告は大会ホームページにある公式掲示に掲示される。  
2回目の違反に対して、直後のレースの得点に+5点を加点する。  
艇のレース得点は失格(DSQ)より悪くなることはない。
3. 帰着した競技者は着艇後速やかに(レース委員会が正当な理由があると認めた場合その代理人)帆走指示書のリンク先より「帰着申告」のフォームを入力、送信しなければならない。帰着申告受付時間は、レース終了後(引き続きレースが行われた場合はそのレース終了後)、またはレース委員会が、本日これ以上レースを行わないという信号を発した後、どちらか遅い方から60分以内とする。(以下、略)
4. 転覆その他の理由により帰着が遅れた場合には、その旨をレース委員会に電話にて速やかに届けなければならない。(以下、略)
  - 指示18.3、指示18.4 の1回目の違反に対して、警告を与える。  
警告は大会ホームページにある公式掲示に掲示される。  
2回目の違反に対して、直前のレースの得点に+5点を加点する。  
艇のレース得点は失格(DSQ)より悪くなることはない。
5. リタイアしようとする競技者は、速やかにレース・エリアを離れリタイアの意思を近くの運営に伝えなければならない。競技者は指示18.3に従い帰着報告を行った後、速やかに帆走指示書のリンク先より「リタイア報告書」のフォームを入力、送信しなければならない。やむを得ず運営艇にリタイアの旨を伝える事が出来なかった場合は、リタイア報告にその理由を記入しなければならない。
  - 指示18.5 違反に対して、リタイアの得点に+1点を加点する。

20. 競技者の交代

2. 競技者は各日の最初のレースの乗員を指示18.2と同時に記入しなければならない。
3. 当日の2レース目以降海上で競技者の交代をする場合は、口頭でレース委員会艇に確認を受けなければならない。この場合、帆走指示書のリンク先より「乗員交代書」のフォームを入力し、指示18.3と同時に送信しなければならない。
  - 指示20.2、指示20.3 の1回目の違反に対して、警告を与える。  
警告は大会ホームページにある公式掲示に掲示される。  
2回目の違反に対して、対象となる全てのレースの得点に+3点を加点する。  
20.2、20.3 共に違反した場合は、各々加点する。艇のレース得点は失格(DSQ)より悪くなることはない。

## ■ レース運営方針

以下はいかなる規則も変更していません。またこのとおりとならなくても、艇からのプロテストの根拠とはなりません。

### ▶ 基本的な考え方

『安全』を最優先とした『公正』『公平』で、『選手に判り易い』高品質なレース

『安全』 …………… 天候変化への先手管理。  
セーフティー、レース委員会、プロテスト委員会、支援艇全体での安全確保

『公正』 …………… 規則はもとより、World Sailing Standard に準拠した運営  
➢ Race Management Manual. Race Management Policies

『公平』 …………… ターゲット・タイムに対応した十分な長さのレグ設定で、計画18レースの完全実施を目標

『選手に判り易い』 …… デイリー・ブリーフィングを通じた、選手・監督とコミッティとの意疎通促進

これらは、レース委員会の行動だけで達成できるものではありません。

選手・監督、全ての支援者のご協力をお願いいたします。

### ▶ 安全：レース実施の風速基準

470 …………… 5Knt – 25Knt (World Sailing Race Management Policies )

スナイプ …………… 5Knt – 23Knt (SNIPE Class Rule)

レーザーラジアル …………… 5Knt – 25Knt (World Sailing Race Management Policies )

#### 【艇が出艇前】

海上風速が上記範囲外の場合、「D旗」は掲揚しない。

#### 【レース中】

風速がレース海面全体で一定時間5Kntを下回った場合、規則32.1(d)に基づき、**レースを中止する場合がある。**

レースの中止・続行は、フリート全体の艇速とレースの公平を考慮して決定する。

470、レーザーラジアルについては、レース海面全体で一定時間25Kntを上回った場合、規則32.1(d)に基づき、

**いつでもレースを中止する場合がある。**

レースの中止・続行は、フリート全体の艇速とレースの公平を考慮して決定する。

スナイプについては、SCIRA規則の「国内及び選手権大会の運営規定」9.1 に基づき、連続して3分以上最大風速が23Kntを越えた場合、**いつでもレースを中止する。**

### ▶ 安全：レスキュー体制

レスキュー4艇(Rib)とトーイング2艇(曳航船：ハード・ボート)でレースの安全管理を行います。

・ハーバーに自力で帆走できない艇の曳航、及び怪我をした人員の陸上への移送は原則トーイング艇で行います。

平均風速が17Kntを越えたら(470について、規則42がoffされる状況が明らかに継続すると判断した場合)、

レース委員会艇での「緑色旗」掲揚と、信号艇からの通信指示により、指示22.8に基づき、支援艇に安全確保のための活動に協力いただきます。

支援艇の行動は、別途展開の支援艇ガイドに準拠下さい。

また最大風速が23Knt越え、470、レーザーラジアルのみレースを実施する状況では、更にレスキューを2艇増強、レスキュー6艇とトーイング2艇の体制とします。

▶ 安全：海上での救助の合図

以下は新型コロナウイルス飛沫感染防止のために、選手が大声を出さなくても状況を速やかに伝達するための一つ的手段であり規則ではありません。

これ以外の方法でも、選手の意図が確認できれば必要な安全行動を行います。推奨方法として提示します。



# OK !

水上で救助が不要の場合、  
手のひらを握って近くのレスキュー艇、  
または運営艇に合図して下さい。



# Help !

水上で救助が必要な場合、  
手のひらを広げて近くのレスキュー艇、  
または運営艇に合図して下さい。